



■□ 第13回/2016年「超”モノづくり部品大賞」のご案内■□

主催：モノづくり日本会議/日刊工業新聞社、後援：経済産業省/日本商工会議所

☆

日頃は日刊工業新聞社にご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、日本の自動車や電機、機械などの各種製品は、世界中で高い評価を得ています。これらは“縁の下の力持ち”である優れた部品・部材に支えられています。モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は、こうした完成品の一部として優れた機能を発揮しながらも、一般には知られていない部品・部材を広く世の中に知らしめ、その功績を称える賞として「“超”モノづくり部品大賞」を設置しています。部品・製品の認知度を高め、モノづくりの現場に携わる方々を元気づける賞であり、ご活用いただければ幸いです。是非とも、多数のご応募をお願い申し上げます。

「“超”モノづくり部品大賞」サイトは <http://www.cho-monodzukuri.jp/award/>

■開催概要■

主 催：モノづくり日本会議/日刊工業新聞社

後 援：経済産業省/日本商工会議所

募集締切：6月30日

審査期間：7月～9月

大賞発表：10月を予定（新聞紙上、モノづくり日本会議ホームページ）

本賞は「機械」「電気・電子」「自動車」「環境関連」「健康・バイオ・医療機器」「生活関連」の6分野が対象。優秀部品約30件に「部品賞」、特に優れたものに「部品大賞」「モノづくり日本会議共同議長賞」「ものづくり生命文明機構理事長賞」「日本力（にっぽんぶらんど）賞」などを授与する予定。

■応募要件■

- ・開発、製品化されてから原則1年以内
- ・原則として販売・納入実績のあるものなど。

このほかの応募要件については、本賞ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.cho-monodzukuri.jp/award/guidelines.html>

《お問い合わせ先》

日刊工業新聞社「モノづくり日本会議」事務局

TEL : 03-5644-7608 FAX : 03-5644-7209

住所 : 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1

E-mail : monodzukuri@media.nikkan.co.jp

2016年「**超**超モノづくり部品大賞」候補申請書の書き方

(申請書式はモノづくり日本会議ホームページ<www.cho-monodzukuri.jp/award/>からダウンロードできます)

超モノづくり部品大賞にご応募いただく際には下記の要項で候補申請書を提出してください。

- 申請書はできる限りマイクロソフトWORDで作成し、電子メール等でご送付ください。
それ以外のフォーマットを使う場合にはテキストファイルでお送りください。
- 本申請書を用いる場合は郵送もしくはFAXにてご送付ください。
- 本申請者はA4判で記述いただき、下記の記入項目の1から4について、5ページ程度に収めてください。
- 応募部品の写真を必ず添付してください。
- 部品内容を説明する写真や図表、カタログ、技術資料、新聞記事などがあれば郵送または持参してください。
- 申請書の送付先 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14番1号 (日刊工業新聞社内)

モノづくり日本会議 **超**モノづくり部品大賞事務局

e-mail:buhin@media.nikkan.co.jp FAX:03-5644-7209

【記入項目について】

1. **商品の内容および特徴** 必ず、どんな完成品のどの部分に使われ、どのような機能を発揮するかを分かりやすく記載してください。また、従来品や従来技術などと比べて優れた点や際立っている点などの特徴を記してください。
2. **審査は次の5項目を中心に行いますので、以下は5項目に沿って記述をお願いします。いずれも、自社、他社の既存・類似部品があれば、それとの比較も踏まえ記述してください。**
 - (1) **技術の独創性** 当該部品に関する技術の画期的な点(外国からの技術導入に基づくものは審査対象としませんが、独創的な改善が加えられている場合は差しかえありません)。
 - (2) **性能** 当該部品の有する機能や能力。当該部品を組み込むことで、これまでにない完成品の実現や完成品の性能を飛躍的に高めた点、従来製品や他社製品との比較など。
 - (3) **経済性** 当該部品の価格、維持管理に必要な経費など総合的かつ長期的にみた経済性。同時に当該部品を組み込むことにより、完成品の価格、維持管理に必要な経費について、総合的かつ長期的にみた経済性の改善効果など。
 - (4) **実績と今後の普及見通し** 受注・販売の実績、シェアなど。また海外からの技術提携の要請や輸出比率などの外国での評価もあれば記述してください。主な受注・販売先はできる限り書いてください。支障がある場合はA社、B社と記述してください。
 - (5) **環境および安全性への配慮** 当該部品の製造時における環境負荷低減や、組み込まれた完成品の環境負荷低減に関する当該部品の貢献など。また同様に安全面での配慮なども記述してください。
3. **その他** 特記すべき内容があれば記述してください。
4. **特許関係件数**
5. **推薦と評価** 大学や公的研究機関などの研究者、あるいは取引先企業などの推薦や評価を原則添付してください。

※ご応募いただきました申請書、写真、資料などは返却致しません。

※申請書の書き方について不明な点、また上記の記入項目ではその性能等を記述しづらい場合は事務局までお問い合わせください。

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14番1号 (日刊工業新聞社内)

モノづくり日本会議 **超**モノづくり部品大賞事務局

TEL 03-5644-7608 FAX 03-5644-7209

2016年「**超**モノづくり部品大賞」候補申請書

フリガナ (数字やアルファベットにもフリガナをふってください)	
部 品 名	
完成年月日	販売年月日
製作会社名	
会社代表者の氏名・役職	
本社所在地 〒	
設立年月日	資本金
年 月 日	円
売 上 高	従業員数
円 (年 月期)	人

連絡担当者

氏名	部署
住所	
TEL	FAX
メールアドレス	
応募について ●日刊工業新聞を見て ●HPを見て ●募集の案内書を見て ●その他 () ※いずれかに○をつけ、その他には () 内に記入してください。	

1. 部品の内容および特徴

2. 評価項目

(1) 技術の独創性

(2) 性能

(3) 経済性

(4) 実績と今後の普及見通し

(5) 環境および安全性への配慮

3. その他

4. 特許関係件数

5. 推薦と評価

2016年「**超**モノづくり部品大賞」候補申請書



フリガナ (数字やアルファベットにもフリガナをふってください)	けいたいでんわようでんしぶひん えむおーえぬおーすりー		
部 品 名	携帯電話用電子部品 「MONO-3」		
完成年月日	2015年5月	販売年月日	2015年10月
製作会社名	○×△株式会社		
会社代表者の氏名・役職	代表取締役社長 山田太郎		
本社所在地	〒000-0000 東京都中央区日本橋小網町○ー×		
設立年月日	1960年 4月 1日	資本金	5億 円
売 上 高	100億 円 (2016年 3月期)	従業員数	300 人

連絡担当者

氏名	鈴木次郎	部署	電子部品部
住所	〒000-0000 東京都港区○×-○×		
TEL	03-○○○○-××××	FAX	03-○○○○-××××
メールアドレス	○○@××.co.jp		
応募について	<input type="checkbox"/> 日刊工業新聞を見て <input type="checkbox"/> HPを見て <input type="checkbox"/> 募集の案内書を見て <input type="checkbox"/> その他 () ※いずれかに○をつけ、その他には () 内に記入してください。		

1. 部品の内容および特徴

携帯電話やスマートフォンで電気制御に使われる部品。携帯電話やスマートフォンの高性能化や省エネ化に寄与する。当該部品を使用することで従来部品の半分の大きさで○倍の高効率化を実現したほか、部品を小型・軽量化した。このため、電気制御の高機能化や回路基板の省スペース化、回路の簡素化、軽量化などの改善効果がある。

※(必ず、どんな完成品のどの部品に使われ、どのような機能を発揮するかを分かりやすく記載してください)

2. 評価項目

(1) 技術の独創性

部品の材料をこれまで使用されていなかった自社開発の特殊材料を初めて採用した。特殊材料はナノテクノロジーを生かしたことで電気抵抗を低くする機能を持たせ、効率を○○%と大幅に向上することができた。また、生産技術に新開発の○× 技術を採用したことで、部品構造を従来のXY型からZZ型に変更することが可能になり、小型・軽量化を実現した。ZZ型は部品構造を簡素化でき部品点数を少なくできるため、生産効率の向上にも寄与する。

※(当該部品に関する技術の画期的な点——外国からの技術導入に基づくものは審査対象としませんが、独創的な改善が加えられている場合は差しつかえありません)

(2) 性能

入力電圧—○○~○○○V、出力電圧—○○~○○○V、出力電流—○○~○○○A、効率○○%、大きさ—○×△×□mm、重量—○○g。

当社の従来部品に比べて○倍のエネルギー効率を実現できるため、容積で○○%、重量で○○%削減できた。当社の調査では、同業他社の製品ではまだ当該部品と同等の小型化を実現したものはないとみている。また、携帯電話メーカーの要求する基準を十分クリアし、従来部品の○倍の耐久年数を持つ。このため、携帯電話の省エネ化や部品点数の削減などに寄与するほか同時に携帯電話に組み込む際の省スペース化も実現する。

※(当該部品の有する機能や能力。当該部品を組み込むことで、これまでにない完成品の実現や完成品の性能を飛躍的に高めた点、従来製品や他社製品との比較など)

(3) 経済性

新開発の生産技術○× 技術により、従来と比べて○○%の製造コスト削減を達成した。特殊材料も希少性の高い材料ではなく汎用性のある材料をナノテクノロジーによって使用できるようにしたことで、○○のコスト削減を図った。従来部品に比べてエネルギー効率が○○%高いことから、携帯電話の消費電力量の改善につながる。従来部品は携帯電話1台あたり○個必要だったが、同部品は半分以下ですみ、携帯電話の製造原価の低減にも寄与できる。

※(当該部品の価格、維持管理に必要な経費について、総合的かつ長期的にみた経済性の改善効果など)

(4) 実績と今後の普及見通し

国内携帯電話メーカーA社には採用が決まり、2015年度に○万台に搭載される計画。B社、C社には採用に向けて耐久試験を行っており2016年度以降の搭載を見込む。また、外国メーカーからの引き合いも多くあり、サンプル出荷を行っている。同分野の製品市場は携帯電話とスマートフォンの普及に伴い、より拡大されることが見込まれる。

※(受注・販売の実績、シェアなど。また海外からの技術提携の要請や輸出比率などの外国での評価もあれば記述してください。主な受注・販売先はできる限り書いてください。支障がある場合はA社、B社と記述してください)

(5) 環境および安全性への配慮

部品を構成する部材等について、有害物質の調査を行いつつも基準をクリアしている。また、特殊材料はリサイクル可能で資源の有効活用に寄与する。

※(当該部品の製造時における環境負荷低減や、組み込まれた完成品の環境負荷低減に関する当該部品の貢献など。また、同様に安全面での配慮なども記述してください)

※「環境関連」分野の該当部品については、審査項目の(1)、(2)を環境面に焦点を当てて審査します。従って、(5)に関しては安全性を中心に審査します。

3. その他

新聞記事への掲載

2015.○.○付 日刊工業新聞 「○×…………○○」

2015.○.×付 △△新聞 「○○○…………××」

当該部品は今回、携帯電話用に開発したが産業機械分野への応用も可能。現在、取引先企業との間で実験的に使用していただいております。今後、産業機械分野への参入も視野にいれている

4. 特許関係件数

出願特許：○○件（登録済み○件）

5. 推薦と評価

※(大学や公的研究機関などの研究者、あるいは取引先企業などの推薦や評価を原則添付してください)

申請書には図や表などを使用して、わかりやすく記載してください。